

豊田市民バスケットボール審判講習会

2013.05.02

豊田市バスケットボール市民総合体育大会が始まります。

本年度第1回目の審判講習会を実施します。

一般連盟で帯同審判員登録されている方は必ず出席をお願いします。

日時：平成25年5月11日（土）18:00～20:00

※ 17:00～一般連盟の方々には5/12大会開催の会場準備に来て下さい。

場所：豊田市運動公園体育館（猿投）

服装：運動の出来る服装と室内シューズ

持物：筆記用具（必須）

参加費：お一人様500円（領収書発行します。）

※一般連盟登録チームは不要（参加費に含まれています）

【講習内容】

- ① ルールテスト。（中学・高校・大学・社会人を対象）
※ミニバスケットボールについては、一部ルールが違います。
- ② ルール改正説明。（中学・高校・大学・社会人を対象）
- ③ 過去の大会で問題とされた判定の確認。
- ④ 質疑応答。

尚、一般連盟帯同審判員の講習会不参加者は審判が出来ません。

一般連盟の大会での審判不履行の罰則金規定が変わりました。

（第6条第5項 1試合につき**10,000円の罰則金**）

【一般連盟帯同審判員 当日不参加申請の件】

- ① チーム名
- ② 代表者名
- ③ 連絡先（返信メールアドレス/携帯可能）
- ④ 帯同審判員名（全員分）
- ⑤ 不参加理由
- ⑥ 講習会希望日 ※なるべく自チームの試合前をお願いします。

豊田バスケットボール協会

審判部



2013年・豊田市民バスケットボール審判講習会（豊田バスケットボール協会審判部）

◆審判とは

～バスケットボール協議規則・まえがき～

- ・この精神をあますことなく発揮するには、プレイヤーと審判と観衆と指導者との四方向からの努力がぜひとも必要である。
- ・審判は規則を堅持してプレイヤーの足りないところを補いつつ、これに健全な方向を与えるとともに、そのゲームを公正かつ円滑に運営することによって、すべての人に信頼されなければならない。
- ・そのためには、規則を文字どおりに読みとり、その規則に照らしながらそれぞれの判断をくだすことをくり返しくり返しつづけることによって、ついにはそれを感覚的にも誤りなく瞬時に判断できるようになることが必要である。

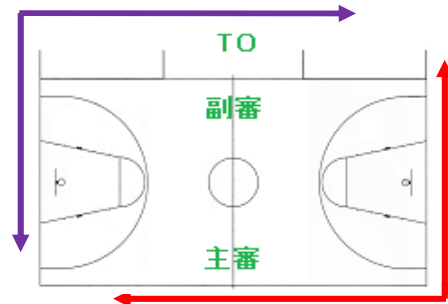
～オフィシャルズ・マニュアル～

- ・審判の主要な任務は、一つひとつのプレイを自分の目で確かめ、規則に照らして判定していくことである。そのためには、絶えずコート上のプレイをしっかりと見るための努力をしつづけなければならないし、場面によっての工夫も必要である。
「審判の約束と習慣」を理解したうえで思いきった動きが必要となることもある。必要なときにはためらわずにいろいろな角度からプレイを見に行く積極性も、よい審判になるためには欠かせない要素である。
- ・ゲームをスムーズに運営していくためには、審判とテーブル・オフィシャルズとの協力も不可欠である。両者の密接な協力関係を築き上げるには、たがいの任務をよく理解し合う必要がある。

◆基本的な動き

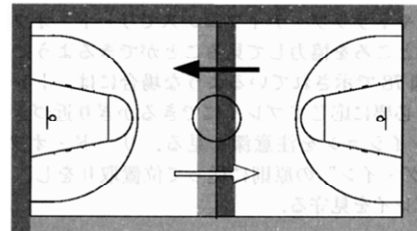
- ・試合開始時、右図の様に主審、副審が位置し、主審のトス・アップによって試合を開始する。
- ・副審は素早くリード・オフィシャルとなり、主審はトレイル・オフィシャルとなり、コート全体を「L」字の様に移動する。

※リード・オフィシャル：プレーに対し先行する審判
トレイル・オフィシャル：プレーを後方から追う審判



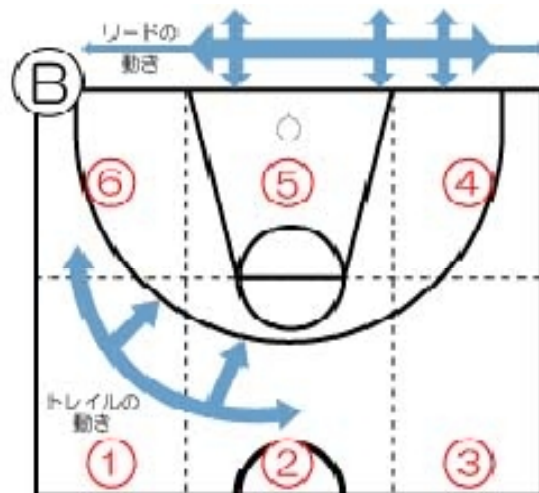
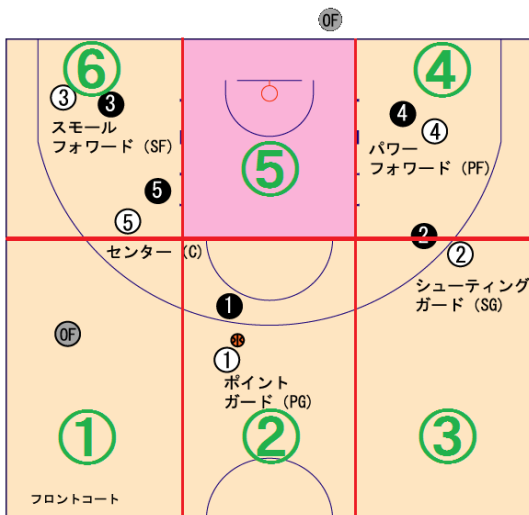
◆リード/トレイル・オフィシャルの責任範囲

- a) アウト・オブ・バウンズとスローイン
- ・リード・オフィシャル
エンド・ラインと自分の左側のサイド・ライン
 - ・トレイル・オフィシャル
センター・ラインと自分の左側のサイド・ライン



b) 責任範囲

下図の様にハーフ・コート（OF）を6分割し、両審判の責任範囲をそれぞれ決め、協力しプレイを判定する。



※詳細な位置取り、視野の当て方はJBAマニュアル参照

【4つの努力目標】

- ・ *Always Moving* : 足を止めない
- ・ *Boxing In* : 両審判の視野の中にプレイヤー10名を置く
- ・ *Penetrate* : 踏込んで確認する
- ・ *Looking Space* : オフェンスとディフェンスのスペースをしっかりと見る

良いタイミングで良い位置取りをし、正確な判定を行うための必須項目

◆ファウルの判定とTOへのレポート

a) ファウルの3原則

1. 触れ合い
2. 触れ合いの責任
3. プレイへの影響

この3つがそろった時、「ファウル」として取上げる
※但し、テクニカル・ファウルは除く

b) ファウルが起こったとき

- ・ 笛を鳴らすと同時に片手を握って腕を伸ばして頭上高くまっすぐあげ、ゲーム・クロックを止める合図を示す。
- ・ もう一方の手は、ファウルが宣せられたことをそのプレイヤー知らせるために、手のひらを下に向けてファウルをしたプレイヤーの腰あたりをさす。



b) TOへのレポート

- ・ TOテーブルから6~8mのところまで走って移動し、スコアラーからよく見通せる位置にしっかり立ち止まって下記の順にはっきりそしてゆっくりとスコアラーへ合図する。
 - ① ファウルをしたプレイヤーの番号
 - ② ファウルの種類
 - ③ フリースローの数または次に攻撃が行われる方向



※スコアラーへの合図（番号、ファウルの種類、等）については別紙参照

◆ファウルのあとの審判の位置

- ・ ファウル判定のあとは、TOへレポートした審判がトレイル・オフィシャルとなるよう、位置を交換する。

◆最後に

- ・ 自信を持った判定をするため、1試合を通しより良い位置取りでプレイの判定ができる様、努力をする。
- ・ 相手審判との協力、TOとの協力無しにはゲームをスムーズに進めることはできません。審判とTOは「1つのチーム」と意識し、協力してゲーム運営を行きましょう。
- ・ バスケットのゲームは「プレイヤー」、「指導者・ベンチ」、「審判・オフィシャル」、「観衆」がいて成立しています。審判の判定もベンチ、観衆へははっきりわかるように笛の音は大きく、合図は大きくゆっくりと行う様に意識しましょう。
- ・ 審判も人間なので、ミスをしなれないということはありません。ミスに対し試合中に反省するのではなく、同じミスをおこさないよう、良い位置で判定する努力を続けて行きましょう。（その努力に対し、プレイヤー、ベンチからの信頼が得られると思います）